準ずる教育課程

小学部　第３学年〇組　　国語科　学習指導案

日　時　〇〇月〇〇日（〇）〇校時
場　所　小学部　３―〇教室
指導者　〇〇　〇〇

１　単元名　　「詩をとどけよう」

２　単元の目標　　知：知識及び技能　思：思考力・判断力・表現力等　学：学びに向かう力・人間性等

（１）相手を意識して，言葉の強弱，間の取り方などに注意して話すことができる。知（（１）イ）
（２）詩を読み，内容を説明したり，情景を想像したりすることができる。思（C（１）エ）
（３）言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。学

３　単元で取り上げる言語活動

詩を読み，考えたことを伝える。（関連：思C（２）イ）

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手を意識して，言葉の強弱，間の取り方などに注意して音読している。知（（１）イ）	詩を読み，内容を説明したり，情景を想像したりしている。思（C（１）エ）	進んで詩を読み，考えたことを伝えようとしている。

５　児童と単元

（１）児童について

本学級は，女子１名で，小学校に準ずる教育課程で学習している。児童は，学習全般に意欲的に取り組んでいるが，ワーキングメモリが低い傾向があったり，理解するのに時間が必要であったりするため，学習内容を精選し，基礎的な内容を中心に学習を進めている。また，書字に時間が必要であったり，問題が分からないときや自信がないときに無言になったりするという課題もある。

１学期に学習したことを友達に伝える際，インターネット動画共有サービス「YouTube」のような番組を作って動画を撮影し紹介したいという希望が児童からあった。４年生児童と一緒に「ひかのんチャンネル」という番組を作り，国語，音楽，外国語活動等の学習の様子を撮影し，友達に紹介した。児童は，学習に対して受け身でいることが多く，発表場面では相手に伝わる声で話すことが苦手だったが，「ひかのんチャンネル」に関する学習を通して，相手や目的を意識し，相手に伝わる声の大きさで話すことができるようになってきた。

（２）単元について

３年生の最初の単元「詩を楽しもう　どきん」の学習の際に，擬声語・擬態語や文末表現の響き，リズムを味わい，行頭と行末で言葉の調子を変えながら音読をした。児童は，「～してみようかなあ」等，母音で音を伸ばす部分をゆったりと読み，この詩独特のリズムを表現することができた。

物語文「きつつきの商売」「まいごのかぎ」では，意欲的に音読の練習をしていたが，正しく読むことに意識が向き，言葉の強弱や間の取り方を工夫することが難しかった。

本単元では，音読した様子を「ひかのんチャンネル」で全校の希望する児童生徒に配信する事を目指して学習することで，相手意識をもって主体的に学習できると考えた。また，詩は分量が少なく，全体が見渡しやすいため，言葉の強弱，間の取り方などを工夫して伝える力を身に付ける学習に適している

と考えた。

本単元では，「夕日がせなかをおしてくる」「わたしと小鳥とすずと」の詩を読み，二つの詩を味わう。「わたしと小鳥とすずと」では，詩を読んで理解したことについて，自分の経験や既習の内容と結び付けて児童自身が考えた連を創作する活動を設定する。そして，児童が想像を広げて読みとった内容と，創作した詩が友達に伝わるよう，言葉の強弱，間の取り方を工夫することを通して音読の技能を高めたい。さらに，本単元の学習を土台とし，学校生活の様々な場面で，目的や場の状況に応じて強く話したり，相手が聞きやすいように工夫して話したりすることができるようになるのではないかと考え，本単元を設定した。

（3）指導について

・主体的に学習に取り組めるよう，児童と対話しながらめあてを設定する。また，振り返りの際は，児童自身が身に付けた力は何か，工夫した点は何かを児童が発言できるように，めあてと学習の成果を再確認する。

・相手意識をもって，意欲的に音読ができるよう，音読の様子を撮影し，全校の友達に聞いてもらう活動を設定する。

・音読の様子を学びの記録として残し，今後の学習で活用することができるよう，児童専用のタブレット型端末に音読の様子を保存する。

・幅広い読書活動につながるよう，教室内の図書コーナーで複数の詩集を紹介し読書環境を整える。

6　指導と評価の計画（総時数　５時間）

時間	小単元・目標	主な評価規準　　（　　）は評価方法
1	1「夕日がせなかをおしてくる」 ・詩全体の構成や内容の大体を意識して音読する。	知第一連と第二連の違いを理解し，意識して音読する。（発表）
2	2「わたしと小鳥とすずと」 ・詩全体の構成や内容の大体を捉える。	知それぞれの連の内容とその関係を理解する。（発言，ワークシート）
3	・「わたしと小鳥と鈴と〇〇と」 経験したことや想像したことなどから，オリジナル第三連作る。	思経験したことや想像したことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。（発言，ワークシート）
4 本時	・相手を意識して，言葉の強弱，間の取り方などを工夫して詩を音読する。	知言葉の強弱，間の取り方などを工夫して詩を音読している。（発言・動画）
5	・動画を見た人のアンケートを読んで，自分の音読を振り返る。	主アンケートを読んで考えたことを進んで伝えようとしている。（発言，ワークシート）

7　本時の計画（総時数５時中の４時）

（1）目標

・相手を意識し，言葉の強弱，間の取り方などを工夫して詩を音読する。知

（2）評価規準

	評価規準（評価方法）	評価基準	
		B（概ね満足できる）	A（十分満足できる）

知・技	相手を意識し，言葉の強弱，間の取り方などを工夫して詩を音読している。 （発言・動画）	・相手に伝わりやすいように，言葉の強弱の付け方，間の取り方を工夫して詩を音読している。	・相手に伝わりやすいように，言葉の強弱の付け方，間の取り方，抑揚の付け方などを工夫して詩を音読している。

（３）学習過程

時間（分）	学　習　活　動 **めあて**　**振り返り**	指導上の留意点 ＊MSゴシック：自立活動シートより	準備物
10:55 (7)	1　前時の音読を撮影した動画を見て，本時のめあてを確認する。 **【めあて】そうぞうしたことが伝わるように音読しよう。**	・主体的に学習に臨めるように，前時までの学習の頑張りを「想像」をキーワードにして振り返り，めあてを設定する。	・前時に書いた詩のシート ・テレビ ・タブレット型端末
11:02 (15)	2　音読で工夫するポイントを考える。	**・友達の音読の工夫を知ることができるよう，４年生の児童が音読している様子を動画で紹介する。【コ】（３）** ・音読で工夫する点が明確になるように，言葉の強弱の付け方，間の取り方を工夫することを提案する。 ・音読する際に，工夫する点を把握しやすいように，強く読む場所には赤線，弱く読む場所には青線，間を開ける場所には丸印を書き入れるよう伝える。	・ポイントカード ・ワークシート
11:17 (20)	3　音読の練習をして，動画を撮影する。 ①撮影①（練習） ②練習を振り返る。 ③撮影②（本番）	・聞いている人に工夫する点が伝わるように，動画の冒頭で頑張るポイントについて説明をすることを提案する。 ・自分の音読の様子を客観的に改善できるように練習動画を見て工夫しようとした点が表現できたか確認する。	
11:37 (3)	4　振り返りをする。 **【振り返り】そうぞうしたことが伝わるように，言葉の強弱や間のとり方をくふうして音読した。**	・頑張った点を具体的に振り返ることができるように，めあてを再確認してから本時の学習で何を工夫したか質問する。 ・次時の学習への期待感がもてるように，次時は動画を見てくれた人のアンケートをもとに音読がどうだったか振り返ることを伝える。	

（４）板書計画

「詩をとどけよう」

【めあて】そうぞうしたことが伝わるように音読しよう。

☆くふうすること

①言葉の強弱

②間のとりかた

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手を広げても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように
地面をはやくは走れない

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように
たくさんなうたは知らないよ。

わたしが，口をひらいても、
ちっともきょうかしょは入らないが、
たくさん入るランドセルは，わたしのように
やさしい心はもってないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

【ふりかえり】そうぞうしたことが伝わるように，言葉の強弱や間のとり方をくふうして音読した。

（５）評価の観点

＜児童＞＊評価基準を基に評価する。

＜教師＞相手を意識し，工夫して音読するための手立ては適切であったか。